支部だより　関西支部

創造的破壊をめざして

昨年8月号および本年4月号で駄筆を弄し，同工異曲の愚説を披露した．両者を〈起・承〉になぞらえるなら，本稿は〈転〉に当たることになる．それで以下，いささか突拍子もない小文を付記することにした．　（加瀬滋男）

少し前，大塚久雄著『社会科学における人間』(岩波新最黄版11）を読んで，感銘を受けたことがある．同書によれば，マックス・ウェーバーはその論文の中で,『ロビンソン物語』に触れているそうである．彼はロビンソンの行動様式の中に，〈形式合理的思考〉がすぐれて前面に立ち現われていたと言う．私はここで，彼のいう形式合理性がORの淵源と知らされて，不意打ちを食らわされたわけである．

形式合理性は単なる目的合理性にとどまらず，さらにさまざまな事象を数理的にとらえていこうとする合理性のことである．かくて形式合理性は，次のような結果を生むとされる．的確な予測を可能にし，また目的合理的に対象に働きかけ，目的を実現するための能力と効率をいちじるしく高めることである．なお形式合理性とは，近代文化のいちじるしい特質の1つを形作るに至った原理の謂である．たとえば，それは企業簿記を生み出し，近代の法理論を支え，科学・技術的思考として現われてきた事実にも裏書きされている．

また一方，カール・マルクスに関する論述からも，イデオロギーを越えて蒙を啓かれた．すなわち，〈経済学〉とは違って『資本論』では，人間諸個人を物象化された状態から救い出したという点においてである．事実彼は，それをはっきり意識していたからこそ，『資本論』に「経済学批判」の副題をつけた由である．それはみずから経済学の基盤の上に立ちつつ，しかも同時に根本的に，経済学の基盤そのものを批判したからであろうと大塚氏は言う．

およそ人間は，自分でも知らぬ間に固定観念にとらわれてしまうことが多い．頭から数量化できないものと思ってしまえば，質的な問題として簡単に片づけてしまいやすい．やはり，常に懐疑の精神を涸らしてはならないと思う．それにつけても思い出されるのは，51・52年度の本会々長で当支部の大黒柱でもあった故北川一栄氏の〈創造的破壊の精神〉である．支部長任期の後半は，下記同氏の遺志を支部運営に反映していきたいものと念じている．“経営はつねに革新をとげなければならない．”（北川一栄　『創造的破壊の精神』東京書房社，昭41，における冒頭のことば）

会合記録

（　）内は出席者数

編集委員会(機)	5月9日(金)(　8)	編集委員会(論)	5月20日(火)(　4)
庶務幹事会	5月19日(月)(　8)	定期総会	5月23日(金)(664)
		研究普及委員会	5月30日(金)(　12)

編集後記▶最終校正日が80年代初頭の政治の流れを占う衆・参ダブル選挙の開票初日．自民党の圧倒的勝利に終りそうだとか．実はOR誌特集の企画段階でたびたび「選挙」という案もでていましたが，ついに具体化しませんでした．選挙予測のあり方，その功罪など今回の選挙ほど問題になったことはないのではないでしょうか．今度も新聞社などの報道機関の予想も大幅にはずれているようです．どのような分析・反省がなされるのか楽しみです．▶学会も総会で新役員が選出され松田新会長体制がスタートしました．新布陣によって80年代のORの方向づけがどのようになされるか期待されます．▶OR誌編集委員会にも新しい有力な3人のメンバーを迎え，より強力な編集体制となりました．OR誌の充実により一層の努力を傾ける所存です．乞御期待．　(M)

オペレーションズ・リサーチ

昭和55年7月号　第25巻（新シリーズ第5巻）7号　通巻235号
代表者　小林宏治
発行所　社団法人　日本オペレーションズ・リサーチ学会
東京都文京区弥生2—4—16　学会センタービル
（電話　03-815-3351～2）〒113
編集人　高橋磐郎
発売所　株式会社　日科技連出版社
東京都渋谷区千駄ケ谷5—4—2　〒151

本誌のご注文は直接
日本オペレーションズ・リサーチ学会へ　定価　650円（郵送料含）年間予約購読料 7200円（郵送料含）
本誌への広告お申し込みは日経弘報社（563-2241），明報社（571-2548）へ

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．